

## 会 議 録

|  |  |
|--|--|
| 会議の名称  | 平成21年度 第2回環境審議会  |
| 開催日時   | 平成21年7月6日（月曜日） 10時00分から12時00分まで  |
| 開催場所   | 田無庁舎 3階庁議室   |
| 出席者  | 【委員】野田会長、伊藤副会長、北村委員、筒井委員、吉村委員、齋藤委員、堤委員、岡部委員、前島委員<br>【事務局】小関環境保全課長、三城環境計画係長、西野環境計画係主査、佐藤環境計画係主事 |
| 議 題  | 1 （仮称）西東京市地球温暖化対策地域推進計画 パブリックコメント<br>回答案について<br>2 その他  |
| 会議資料の<br>名称  | 【事前配布資料】<br>【資料1】（仮称）西東京市地球温暖化対策地域推進計画パブリックコメント回答案<br><br>【当日配付資料】 吉村委員より参考資料                  |
| 記録方法   | 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録   |
| 会議内容   |  |
| <p>（10時00分 開会）</p> <p>1.開会<br/>野田会長より挨拶</p> <p>2.議案<br/>（1）（仮称）西東京市地球温暖化対策地域推進計画 パブリックコメント回答案について<br/>（2）その他</p> |  |
| <p>&lt;事務局より【資料1】の説明&gt;</p> <p><b>野田会長</b><br/>今日の目的は、パブリックコメントへの対応をどうするかについて検討していただきたいと思っています。</p>             |  |

### **北村委員**

削減目標の設定は難しいと思うが、西東京市という点をもっと明確化して打ち出してよいのではないかと。

### **野田会長**

この意見をいただいて、なるほどと納得した分、難しいと思った面もある。西東京市らしさを出すために、一步踏み出すという発想の意見だと思う。

### **吉村委員**

全体の意見を見た感じでは、言われても当然というか、これは言われるだろうなと想像できた内容である。パブコメに際し、あらためて推進計画案を第三者の視点から読み直してみたが、具体性や市の決意が見えてこない。市の具体的施策を出していかなければいけないと思う。

また、以前齋藤委員が言われたように、計画の進行管理、見直しを行う部門があった方がよいのではないかと。意見にも出ているが、市として組織的に検討する必要があるのではないかと。形式的に庁内横断的な会議体を設置して、環境担当課が事務局になるという、よくあるパターンでは実効性を担保できないのではないだろうか？

西東京市らしさという点については賛成である。

### **野田会長**

年度毎にではなく、3ステップに分けて具体的数値を設けるべきであるという意見があった。目標が明確になるという面があるが、状況が変わっていく中で決めるのは、個人的には難しいと考える。この審議会で決めるのではなく、次期環境審議会で考えた方が具体化できるのではないかと、思っている。

### **筒井委員**

年度毎に数値目標を設けるのは、非常に難しいと思う。年度毎の削減目標の根拠を具体的に示すのは難しい。2020年度までに市、市民、事業者が協力していくという姿勢を示すのが現実的ではないかと思う。西東京市の特徴として、市民の協力がなければ実現しないということを明記したらどうか。

### **吉村委員**

全体に関しての意見で、市の独自性をとか、シンボリックな事業計画をとといった意見があるが、これについては我々が考えるというよりは、市が考えるものではないか。

No.73に対する回答案については、意見者の意図するものに対し回答の見当が違っている。一例だが、市民が現在利用している交通機関を、CO<sub>2</sub>排出の少ない手段に変えるといったような、魅力と具体性と市の決意を示すような新たな対応を求めているのだと思う。

### **北村委員**

素案を見て意見をくれた人の中には、審議会委員は市民の代表であるため、市の姿勢を受け止めて審議してほしいという意向があるのではないかと。市長の考え方などをも

つと示してはどうか。

**伊藤副会長**

市によるランドデザインを取り込んでいくべきである。

**北村委員**

最終的には市長のCO<sub>2</sub>削減に対する姿勢なのだろう。市のどの部門が責任をとるのかという意見もあったが、誰が責任を持って伝えていくのかを示すべきではないか。

**伊藤副会長**

No.73の意見に対して、計画の推進に対するメリットや市民の負担を示すのが薄いのではないか。

**北村委員**

国、都、西東京市という流れの中での立場を審議会委員は理解しているが、市民はどうしたらよいか、負担はどうしたらよいかということを知りたいのではないか。

**伊藤副会長**

計画の中ではライフスタイルについて謳っている面もある。それに対し、負担がなくやれるという人もいれば、負担があるという人もいる。市全体の目標ではなく、自分の目標が見えないのではないか。数字の目標を入れることは難しいが、削減するためにどうやって行っていくのかというプロセスの説明が抜けていたかと思う。年度毎の目標はプロセスがあってはじめて明らかになる。プロセスについて、どう管理していくかなど方向付けだけは示しておくべきではないか。

**筒井委員**

例えば、5ページの部分に加えるということか。

**伊藤副会長**

内容については別の計画で位置づけることになるのかもしれないが、目標や指標があってそれをどう評価、見直ししていくかについて、削減を実現していくための具体案を考えています、ということを明記することが必要ではないか。

**筒井委員**

確かに必要かと思う。2020年に向けて、計画の進行管理の体制も示しているのだから、大まかなスケジュールでも、こうやっていきますよ、というものがあつた方が良い。大まかな進め方として、市は何か考えているか。

**事務局**

5ページの部分に付加することは可能だと思います。細かい部分で具体的にというのが皆さんからの意見だと思いますが、重点施策についても「検討」「継続」でなく、予算調

整をした上で入れることも可能かもしれません。

**筒井委員**

25パーセントの削減に向けて、答申を受けて市が庁内調整をし、評価委員会で検討を進める等、2020年に向けてどのような流れで進めるのか、という形が分かればよいと思う。

**事務局**

事務局にて、表現方法を検討します。

**吉村委員**

本計画ができた段階で、再度パブコメを行うのか。

**事務局**

行いません。

**野田会長**

ざっくりとしたプロセスを見せた方が、イメージしやすいということである。

**齋藤委員**

どの部署が計画をチェックするか、ということについて考えるべきである。環境審議会、地域協議会等の体制が書いてあるが、地域協議会はチェックするための組織ではない。

庁内推進委員会が数値の算出をする部門であると思うが、計画のチェックを誰が行うのかが分からない。

**筒井委員**

評価は庁内推進委員会がやるのか、それとも第三者の立場の人を呼んでやるのか、どちらがよいのか。

**齋藤委員**

当社において、都条例の総量削減事務についての削減計画を作成しているが、それは社内の担当部署でチェックまで行っている。また、計画見直しについては長くても3年毎くらいでチェックすべきである。

**筒井委員**

計画があり、目標があり、最終的な到着点でどのくらいできたのかということであるが、途中の評価も必要ではないか。副会長の意見にもつながると思う。過程・プロセスと途中段階での評価が大事だろう。

**伊藤副会長**

会社でチェックしているということだが、どのような項目でチェックを行うのか。

**齋藤委員**

二酸化炭素等の数値である。

**伊藤副会長**

チェック・状況把握は専門家が内部で行い、その結果に対して審議会のような場で審議すべきである。

**筒井委員**

評価については、客観的に第三者にチェックしてもらうのが一般的である。数値の分析は、庁内でやるのではないはずである。

**伊藤副会長**

専門家や市民の代表が参加する組織に加え、集計のプロも必要となるのではないか。

**北村委員**

具体的なアクションをどう行って伝えていくかという、実行の点も重要である。

**筒井委員**

3年後に見直した場合どこまで進んでいるか、さらに6年後、9年後はどうか、目標達成に向けて何が足りなかったのか、評価、見直しなどをすることが必要だと思う。

**野田会長**

地域協議会にその役割を与えることも可能である。毎年の評価は市でやり、その結果をまとめたものを協議会でやるということである。そういった考えをパブコメの素案に入れていなかったため、パブコメで意見が出るのは当然である。そういった役割を地域協議会に与えることは、法律上可能なのか。

**事務局**

可能です。庁内においては、エコアクションも取り込んだ形で簡素化することもできると思います。

**吉村委員**

例えば秋田県の場合、市民による監査を導入しており、監査員が評価した結果、目標値が低すぎたとし、数値を上げることになったという。評価・見直しも基本的には住民参加の体制の下でなければだめで、最悪なのは、法律ができて国から指令があったからという理由で、形式だけの地域推進計画を策定し、形だけの進行管理の組織を庁内で作ることである。もちろん計画の推進軸はプロとしての市行政が担うとして、そこには市民の参加があるべきであろう。

**伊藤副会長**

意見を述べる場を設けるとともに、実効性をどう持たせるのかが問題である。方向性を

どう設定するかにより、意味があるか否かが決まる。

#### **野田会長**

そういった必要性を述べて、具体的な受け皿は別途という形にし、書かないということもできる。あるいは、具体的な受け皿を示すこともできると思う。パプコメまでに正式に議論できなかった部分だと思う。削減値についても、年度毎に設定しなくても、まずは考えているということを表示すべきである。

#### **伊藤副会長**

西東京市らしさを回答に入れるべきである。市民や事業者がどんな姿勢で進むべきかを示すべきではないか。

#### **北村委員**

市民がやりたくなる、やれる、続いて動いていける、ということを書いていくべきではないか。

お題目だけではなく、実行できたという実感を市民は持ちたいと思う。

#### **伊藤副会長**

どんな負担を持つ必要があるのか、義務ではないがお願いしたいという要素を入れるべきである。

#### **北村委員**

みんなの問題であるというのはいまもう分かっている。みんなで考えましょうというのは、今までの計画と同様である。市民の体験談をホームページで公表していくことなどが必要なのではないか。

#### **筒井委員**

西東京市らしさ、市の意気込みを書くとすれば、取組の部分で具体的なものが入れれば伝わるのではないかと。6ページか16ページに入れることになるのではないかと。他に該当する箇所はあるか。西東京市らしさというのは、国や都にひっぱられるのではなく、市としてどう取り組むかということ、また、民生部門からの排出が多いため、市民に協力してもらわないとならない、という2点であると思う。

#### **伊藤副会長**

民生部門が多いということについては、市民や事業者の立場を強調することで対応している。そこから一歩進めて、プロセスを示すべきではないか。

#### **北村委員**

言葉の修正であるが、西東京市らしさというより、西東京市の決意だと思う。そして、その決意を実効に移すべきである。

#### **堤委員**

北村委員の考えに賛同する。パブコメの回答案を読んだが、自治体が全てこういう回答であったら、パッションがないと思ってしまう。計画書なので安易なことを言えないのは分かるが、主体的・積極的な姿勢を入れることは出来るのではないか。この審議会も、今、涼しい中に行なっているが、本来はそうではなく、うちわを使って会議を行うべきである。そういったことを市民にやってほしいというものであり、それを伝えることができるとういと思う。具体性が伝わらなかったというのが、今回のパブコメの印象である。

#### **筒井委員**

目標が高いという意見が多く出るかと思ったら、意外にみなさんは積極的に捉えている意見であった。

#### **堤委員**

パブコメに意見を出す方は、積極的に捉えている方であると思う。

#### **筒井委員**

目標達成に近づけるためには、遠慮せずに強すぎるくらいの表現の方がよいのではないが。25パーセント削減に向けての熱意が伝わるようであった方がよい。

#### **吉村委員**

17ページに掲載されている家庭の取組というのは重要であるが、我慢しないエコがあってもよいのではないか。楽しく取り組むことにより自然に入っていきけるようなやり方が、西東京市らしさにできないかと考える。強制的ではなく、市民の自発的な行動によるもので、例えば農産物・特産物の地産地消等は明るさ楽しさも感じてよい方策と思う。他方、前橋市では庁舎の温暖化対策をやっていて、昼休みに担当者が毎度庁内を回り、「マイ箸を使ってください、水からでなく給湯器のお湯を沸かしてください」などという呼びかけをしている。感心すると同時に、そうではなく、もっと楽しく気楽にやっていけるとよいと思う。あまり生真面目にやられると辛くなるし、かえって長続きしないのでは。

ところで、今日の進め方についてであるが、それぞれの意見への対応を決めるのでなく、委員個々が意見を言う形でよいか。回答案は次回決めるということではよいか。

#### **野田会長**

そうです。1回追加で開催することはできると、事務局から聞いている。

#### **吉村委員**

そうでなければ、今、回答を一つ一つ確認していかなければならない。

#### **堤委員**

相対的な議論をした上で、細かい部分については事務局で修正していただいて送ってもらい、意見があれば提示するような形でよいと思うが、いかがか。

### **野田会長**

答え方も含め、西東京市らしさについてどう答えるのか、また、どうチェック機能を持たせるのかという、枠組みの2点が大きな問題である。

後者については、方向性を示すという案が出ている。前者はどう表現するのかを議論する必要があるかもしれない。

### **筒井委員**

回答については、事務局の方で修正出来る部分と、今議論している大きな点があると思うが、修正できる部分については修正していただき、また、今日の議論を踏まえて事務局にて対応してもらえばよいと思う。

### **野田会長**

今日取り上げてない部分について意見がある場合は、メールにて提案していただきたい。細かい修正箇所については、修正したのを見て意見をいただきたい。

### **齋藤委員**

9月に計画を公表するとあるが、その時に市長の意気込みがどう伝わっていくのかによって、スタートがうまくいくかが決まると思う。公表の仕方はどのようなものか。

### **事務局**

通常は、意見と回答をそのまま出す形である。回答の公表については、9月を目処にしているということです。計画書の印刷は9月～1月頃を予定しています。市長の意気込みは、冒頭部分に挨拶という形で入るのが通例です。

### **伊藤副会長**

計画書の「はじめに」の部分で市長に決意表明をしてもらおうと効果的であるが、どんなことをどんな趣旨で言ってもらいたいのかを、審議会として示すべきなのではないか。

### **堤委員**

No.12の意見で、都市緑化を重点施策にしてはどうかというものがあつたが、緑化は西東京市らしさのひとつであると思う。重点に位置づけてもよいのでないか。

### **吉村委員**

環境基本計画の後期計画の中で、重点の1に「地球に優しい生活を心がけよう」とあり、その中に、今我々が行っている地域推進計画の策定が位置づけられている。他の計画の策定の議論はどうなっているのか。

### **事務局**

環境基本計画は、条例で策定が定められているものである。地域推進計画は環境基本計画の中で策定するとあり、審議会の中で検討しているという流れであります。

**吉村委員**

審議会委員というのは環境基本計画について審議すると思っていたが、今年は地域推進計画をメインでやっているということか。

**事務局**

そうです。

**堤委員**

西東京市では、例えば、街路樹を寄付するとか、並木を配布するなどの施策が考えられるため、重点施策に位置づけてもよいと思う。今の回答では、No.12の意見に対し、熱き答えには聞こえない。

**筒井委員**

重点施策として取り上げて取り組みます、と回答すべきではないか。

**堤委員**

明記していますというように言い切ってしまうずに、前向きに、熱心なところを伝えていけると良いと思う。

**野田会長**

市民の方からみると温暖化対策でもり、ヒートアイランド対策でもあり、緑地対策でもあるということではないか。

**筒井委員**

回答案について、具体的に記述すべきではないか。

**野田会長**

新たな取組を追加しなくとも、アピールできるのだと思う。

**伊藤副会長**

市内にはもともと農地だったところがあり、そこに工場の跡地として共同住宅の計画と共に緑地が整備されてきたという流れがある。そこに触れた上で既存の緑の資源を繋げていくことと、その中にヒートアイランド対策などの機能も含めるという表現をしてもらいたい。

**筒井委員**

意見を言った人の意向として、重点として取り上げてほしいという意味もあるのではないか。審議会としては重点的に進めていきますという表現とした方がよいと思う。

**野田会長**

重点にすると中身をかえる必要がある。そこまで踏み込むべきか、考えていただきたい。

#### **筒井委員**

書き込めるのであれば入れていただいたい。できないのであれば、もう少し丁寧に回答するべきである。

#### **堤委員**

西東京市らしさを感じさせる施策を織り込みたいという点から考えると、緑化が良いのではと思う。それが難しいのであれば、緑化に前向きであることが伝わる回答が来るとよい。

#### **伊藤副会長**

家庭での取組が重要といっている中で、具体的な取組で関係性を持たせることが必要だと思う。もう一步踏み込んだ施策を入れるべきではないか。

#### **筒井委員**

緑があってうっとうしいという人はいないと思う。苗木を配布する、公園に緑を植えるという取組に加え、緑化計画で考えている、というような回答とした方が、意見者は満足すると思う。

#### **事務局**

重点施策が7つ目になるという数的な問題があります。また、この回答には、緑化計画で責任を持って対応するという意味も持たせています。

緑についての記述が少なかったということもあり、28ページの下に緑化計画についての説明を入れるなど検討し、工夫します。

#### **前島委員**

パブリックコメントは6人、1団体からの意見ということだが、回答者はかなり積極的に考えられて活動している等、自発的で意識の高い人たちである。

西東京市らしさという点であるが、都市と緑地が混在していることと、事業所というよりは住民が中心であるという点が特徴だと思う。

チェックの点については、2020年に25パーセントの削減という目標であるが、市民のレベルで削減した数値を把握することが難しく、また、長期的で達成がかなり厳しいものである。実際のところ、市民に我慢や犠牲を強いることを打ち出していくのか、その辺りをどう考えるかによって、進行管理をどうしていくかに関わってくると思う。

実際に取り組んでいくのは、意見をくれた人たちの裏にいる意見を言わない人たちである。我慢、無理強いをするのではなく、市民が実際にやっというのが、西東京市らしさであると思う。チェックも重要であるが、そこに捉われない方がよい。重点をみても、家庭の部分が大きい。行政や事業者もやらなければいけないが、まずは家庭にスポットを当てるべきであり、こんな啓発をしてこんな風にやってきた、というプロセスの部分を検証していくということが大切かと思う。

### **北村委員**

審議会に参加していると25パーセント削減の意味が良く分かるが、一般の人に伝えるのは難しい。キャンペーンなど、「～をしましょう」と音頭取りを仕掛けていかなければ達成しにくい。例えば、武蔵野市がやっているような、「温度設定を上げるために服装はこうしましょう」という垂れ幕を駅前にかけるなどの、具体的なことを提案していくことが親切ではないかと思う。

また、パブリックコメントがたったの“6人+1団体”というところではぱっと線引きしてしまうのは危険だと思う。何人かの意見をまとめて書いている可能性もある。都市の緑化については、丁寧に答えるべきであると思う。

### **前島委員**

基本姿勢はこれでよいと思う。意見のうちのいくつかについては、丁寧に答えていかないといけないと思う。25パーセント削減の意気込みは盛り込むべきであるが、相対としてはこれでよい。実行するのは多くの市民の方であり、いかにそこにスポットを当てるかということが重要である。パブリックコメントの回答としてはよいと思うが、具体的な数値目標の設定が無理強いや負担を連想させるマイナスのイメージとなってしまうと、市民の活動に結びついていかない。そうではないというのが、西東京市らしさだと思う。

### **伊藤副会長**

マイナスなイメージを楽しさに変えていくということである。この計画は、ちょっと工夫すればできることを取り上げている。削減することに対し生活の楽しみを増やすというニュアンスを、西東京市らしさという面で加えていければと思う。

### **堤委員**

原宿で行われたキャンドルナイトのイベントに参加したが、道路にアートしたり、学生がデザインしたキャンドルを見せ合ったりなど、とても楽しいものだった。レストランも照明を落としキャンドルにしていた。杉並区にも言ってみようかと思ったくらいである。こういったことを西東京市に置き換えて、楽しさを何とか伝えていければよいと思う。色々アイデアは出ると思う。エコアクション21だけでは堅いため、他にも何かやり方があるのではないか。

### **吉村委員**

検討中という表現が多いという意見があるが、公表される際に回答は入るのか。

### **事務局**

入力して公表します。

### **吉村委員**

奥委員が、最初の頃に課金制度による交通量削減の実例の話をした。また堤委員が温暖化を何としても阻止したいと言われたのも重く受け止めている。そういった要素を計画案に加えきれなかった。自転車道については、具体的な事業化に入れて、やる方向で検討

していただきたい。観光と環境両面に効果的な施策になると思う。

#### **伊藤副会長**

自転車で移動したくなるような、緑地の整備や、自転車道等の交通環境を整備するなど、といった考えで取組を進めてはどうか。自転車利用や歩きたくなるようなまちづくりが、西東京市における温暖化対策の核となると思う。そういう考え方から策定しました、というようなニュアンスが入れられるのではないかと思う。

#### **北村委員**

緑があると、ちょっと休みたくなるという面もある。

#### **吉村委員**

緑の散歩道というキーワードもあると思う。

#### **野田会長**

審議会としては、素案を変えずにキャッチフレーズをつけるなど、内容は堅いけれどもそういったことを言いたくて書いたということと言える。西東京市らしさについてはこの審議会では答えが出るか分からないが、それを追求することが、西東京市らしい削減対策につながっていくと思う。

#### **北村委員**

No.24の意見であるが、社会づくりというのは、「快適な暮らし・地域社会づくり」というほうがよいのではないか。社会づくりというと、大きなテーマに感じてしまう。

#### **野田会長**

素案を修正する。今日の議論を踏まえた回答案を事務局で作成し、みなさんに配布、確認していただく。それに対し、次回審議会前までに委員からの返信がなければ、それでOKとする。スケジュールとしては、8月の審議会時に今日の回答案を踏まえ最終的な確認をし、その上で9月に提出する運びとする。8月の会議で終了することを目指す。必要であれば9月にもう1回追加会議を開くこととする。

次回の日程ですが、8月31日（月曜日）の10時からお願いします。

#### **事務局**

場所は追って連絡します。第一優先として田無庁舎で検討します。

(2) その他

< 吉村委員より、配布資料の説明 >

3. 閉会

( 12時00分 閉会 )

